

町の農業支援への取り組みは

答 今後も独自支援策を検討していきます

道の駅の今後の活用方法は

問 道の駅多古は、オープンから20年以上が経過し、直すべき箇所など、多々あると思います。施設のリニューアルなどを予定していますか。

町長 昨年は空調設備の改修工事を実施しました。現在、県において浄化槽改修の詳細設計が進められています。

問 トイレは県の持ち物になりませんが、改修工事は要望していますか。

産業経済課長 浄化槽工事は大きな工事であり、一年間で終わるものではないと認識しています。しかし、トイレについても、20年以上経過しており、今のニーズに合ったトイレの改修工事を要望しているところです。

問 栗山川と周辺のロケーションは、ほかにはない多古町ならではの素晴らしいものです。町で、周辺ロケーションを生かしたイベント開催の考えはありますか。

産業経済課長 町のイベントのほかに町民の

方々が活躍するようなイベントが多数出てきており、とても活性化してきました。また、駅伝大会など、スポーツ的なイベントもあり、そういったところと道の駅がコラボしていくことも、今後の活性化に向けて重要だと思っています。

問 道の駅多古は、町のシンボルです。あの建物をどうしたら使い勝手がよくなるか、計画はありますか。

産業経済課長 今後、施設を利用する方々、社員さん、出品者さんから色々な意見を聞き、改修箇所を改めて確認し、具体的に考えていきたいと思っています。



計画的な改修を

行橋 千春 議員

所要時間 61分



町独自の農業支援を

問 農地及び農業者は、年々減少しています。国の政策で2025年3月までの策定になっている地域計画の進捗状況を教えてください。

町長 地域農業の設計図とも言われる地域計画は、昨年度より町内を31地区に区域分けして、地域の農業委員や農地利用最適化推進委員の方々と一緒に策定を進めています。

問 町としては、農地を集約して法人化を目指しているのでしょうか。

産業経済課長 地域計画は地域の農業を今後どうしていくかということのプランです。地域の農業をみんなで考え、計画を作っていきます。その上で、町の今の農業に合った施策を色々展開していく必要があると思っています。



ゼロ歳児の受け入れ態勢は十分か

答 柔軟に対応可能な職員配置をしています

保護者に寄り添った運営を

問 現在、ゼロ歳児の受け入れ態勢は。

町長 現在は待機児童はいませんが、ゼロ歳児の定員は20人で、現在は2人入所されています。

問 職員の体制は十分か。

町長 ゼロ・1歳児に受け入れが増えることを想定し、当初から職員の配置を考慮し、柔軟に受け入れられる体制を取っています。

問 昨年度、保育教諭が辞めたために待機児童が出たが、今年



子ども、保護者、町のために

度保育教諭は何人入ったのか。待機児童を出さないための対策はどうするのか。

こども園園長 本年度の新規採用は1人です。

多目的ルームを保育室として園児が安全に過ごせるように環境を整えるよう進めています。

問 (多目的ルームは) 保育室としないとのことですが、対応があまりにも遅いのでは。

こども園園長 昨年度の時点で多目的ルームが保育室として整っていれば、ゼロ歳児の受け入れが可能だったというのはそのとおриだと思います。そのほか、ソフト面での対応としては、大学や専門学校に行つて保育教諭として本園に来てもらうように働きかけをしています。

問 1年に1回アンケートを実施しているが、それで保護者の声を伺っているという認識なのか。また、保護者に本当に寄り添ったアンケートなのか。

こども園園長 年に1回のアンケートについて

橋本 孝之 議員

所要時間 61分



は、選択式と自由記載の二通りで取っており、たくさん意見をいただいています。職員全員で共有し、運営の参考にしています。職員は、園児の送迎の際には、親身になって対応し、1日の様子を丁寧に話しています。その時に、意見をいただくこともあり、園の運営に生かしていくよう努めています。

問 アンケート結果については、数値的な結果のみがA4紙一枚にまとめられているが、自由記載欄に書いた結果は返していないのか。

こども園園長 自由回答については膨大で全て伝えることは難しいと思います。

問 学童保育所はアンケートの自由記載について、情報提供しているが、同じ町の行政で学童保育所ができていて、こども園はできないということでは、保護者には疑問である。また、お迎えについて、コロナ禍から生活が普通になったのに、

問 今回、町独自の新規の農業支援事業を打ち出してくれたと思いますが、どのような内容ですか。

産業経済課長 一つは環境負荷低減型農業資材購入に対する補助。また、新規就農者に限りますが、収入保険加入への補助を始めました。

問 いわゆる生分解性マルチへの補助は、環境にも優しく、作業の効率化も望めますが、単価が高い。収入保険は、収入が基本で、経費がかかれば、所得は少なくなりま。もっと、農家の方々の現実の声を聞いて、相談に乗って支援をお願ひできませんか。

産業経済課長 農家の方々のお話を聞くことにより、今後の施策の参考にもなりますし、農業を取り巻く環境や気象条件など、様々な変化に対応していくことが、今後の農業施策には必要だと思っています。



持続可能な農業のために

コロナの時のやり方が続いている。コロナ前の時に戻すべきではないか。

こども園園長 引き渡しについては、今のようにつくりに担任の先生と話をしながら園児を引き取りたいという多くの意見をいただいています。今のやり方のメリット、デメリットを園の中で検証しており、現在は、このやり方がよいということをやっています。

明日の農業を守るために

問 就農プラットフォームとは。

産業経済課長 農業者と新規就農希望者が出会い、交流の場を提供し、就農しやすい環境を整えて、農業の課題である人材不足、担い手の確保につなげていくものです。さらに農業の第三者継承にも可能性が出てくると考えており、機械や施設の継承のほかに高齢者に蓄積された経営のノウハウや技術を次の世代へと引き継いでいくことは非常に大切と考えています。



手軽にマッチング